



「縦割り班活動」で高学年を鍛える

縦割り班活動について、活性化への方向性を探ってみます。

「縦割り班」があればいいというものではない

まず「縦割り班活動をしていれば、子どもたちが育つ」というものではないことを確認しておきましょう。

A 小学校では、「縦割り班掃除」で6年生が楽な掃除を担当をしており、低学年が一生懸命はたらいしているという状況がありました。私(尾形)は、そのときA小1年目で5年生の担任でした。そこで、3月末に教師が勝手に決めていた「縦割り班づくり」をやめて、6年生に持ち上がったときに、彼らと「縦割り班活動の意義」について話し合ったことがあります。そして、その年は5月の終わり頃から縦割り班を作りはじめました。

また、他の小学校でも、縦割り班活動のために、6年生が威張っているだけの状態もあったと聞きました。どんな活動もそうですが、点検・議論・反省のない活動はマンネリ化してしまうのです。

「なんのために」を忘れた「単なる活動」は、その活動自体の意味をうばうだけでなく、場合によっては「やらない方がよい」という状態も作り出します。

縦割り班の落とし穴

縦割り班活動では、高学年に「自覚」と「責任感」を持ってもらい、「自分たちでできた」という「達成感」の中から「自己有用感」を感じ取ってもらいたいというのが、その目標とするものです。「私も班長のようにになりたい」と、低学年にとって「身近な見本」となることが大切です。

こういう縦割り班活動になるためには、それなりに教師側からの仕掛けが必要です。その仕掛けが不十分だと、どっかの運動部のような「先輩が威張り散らすだけ」の縦割り班ができあがります(学校の部活動はまさに縦割り班ですよ)。「タテ社会の人間関係」ってな本もありましたが、悪い意味での「タテ型社会」ができてしまうのです。

教師側から仕掛ける

私がこれまでの学校でやってきた縦割り班活動における<仕掛け>を書いてみます。

①学級で、縦割り班の班長を立候補で決める。

このとき、立候補した者が「本当に班長ができるのか」と言うことまでつつこんで議論します。当然、今までの生活態度を見ている友だちから、「お前には無理だ」というような厳しい意見も出ます。それらの本音を出した上で、それでも引き受けることに意味があると思うからです。教師は立候補した子が簡単に引き下がらないような支援をしておきます。これにはちょっとコツがいるかな。

②班長会議を開き、どの班長が〇組になるかを決め、さらに、児童名簿を見ながら、自分の班員を全班長協議の元で決めていく。

これで、自分の作った班であるという意識が生まれます。会議の中では「私の班では、支援の必要な子を引き受けるから、もうひとり5年生のこのリーダー的な子をもらいたい」というようなことが話し合われるのです。ここに話合われたことはすべて秘密にします。今まで、もれて問題になったことはありません。というか、子どもたちはみんな知っている情報で話し合うのですから、本音の世界ですね。

③学校生活や児童会行事・学校行事などに、縦割り班活動を積極的に配置する。

④学期に1度くらいは、縦割り班で困っていることを学級で出し合う。

⑤行事の時には、特にていねいに、縦割り班での活動について、反省や振り返りを行う。

⑥低学年が「6年生すごいね」「6年生ありがとう」と書いてくれたような日記や作文を紹介する。

この④⑤⑥が、とても大切です。

たとえば…運動会

本校6年生に対する〈仕掛け〉です。中途半端な感じで運動会から始まった縦割り班活動でした。

①縦割り班の各競技での責任者を決める。このとき、担任から「心構え」を話しておく(1時間)。

②1回目の縦割り活動。4組に分かれて、出場種目を決め、並ぶ順番も話をする(1時間)。

③1回目の反省を6年生で交流する(1時間)

これが大切です。やらせっぱなしにしないこと。まずは、競技ごとに集まってうまくいった部分といかなかった部分話し合い、その原因と対策をさぐります。次に、それを学級全体のものにしていきます。場合によっては、他の班の話し合いのビデオを見せることもあります。ですから、6年生担任は自分の組についているのではなく、すべての組を見てまわることも必要です。

■今日、1～5年生までを「たいふうの目」のルールなどを教えた。6年生みんなで黒板の前に出て教えた。初めて教えることをして「大変だなあ」と思った。1年生があまり分かっていなかったみたいで、実際にぼうを持ってやると最初より分かったような感じがした。なんでも実際にしてみることが大事なんだなあと思った。今回で、「みんなで協力して教える大切さ」と「実際にやる!!とよく分かってもらえる事」が分かった。今日はいいい体験ができた。

■せつめいしたけど、ちゃんとわかってもらったかしらばいでした。1～2年生のチームは6年生が決めたけど、3～5年生は自分で決めてもらいました。

■今日、チーム決めにしました。6年生が前に出て、黒板係と説明する係で分けてやりました。それで私は、黒板に書く係でした。黒板に決まったことを書いているとき時間がかかったので、もう少し早く書けばよかったです。

□ぼくは、二人三脚担当なので、1～5年に二人三脚を教えました。でも教えるのはむずかしく、なかなかせつめいできませんでした。しまいには遊びだすやつもちらちらいました。ぼくは1回だったけど、先生は毎日こんなことをしていると思うと、1回くらいがまんしました。先生はすごいと思いました。

□練習をするときは、時間があと10分しかなかったけど、二人三脚がまったくできていなかった1年生が、ちよつと教えただけでけっこうまくなつたのでうれしかったです。

■そして、その教え方がわるかったので、男子全員でやって、女子はなにもしないとはいわないけど、一部の女子はあそんでいました。「こんなじゃ教える人じゃない。6年生として最悪だなあ」と思いました。もっと6年生らしく、きちんとやってほしいです。

■さいしょおしえるとき、1年も2年もぜんぜんはなしをきかずにしゃべっていて、たいいくのときよりも、さらにつかれたとおもいます。みんないろいろとやってもあそぶ人がいました。けつきよくれんしゅうができて中とはんばでおわつてしまいました。ぼくもいろいろしましたが、だめでした。そうつくろがはなすときは、いみもなくみんなをたたせて1年がなきそうにしゃがんだりしてかわいそうだった。こんないろいろながあって、ていがくねんはつまらなそう。ぼくたちもつかれたので、ざんねんな目になって、「もういやだ〜」とそうおもいました。

こんな反省を交流しながら、次の活動へのステップをふんでいくのです。教師は、突き放したり個別に話したり…という活動をしていきます。

④予行練習の前に「自分がやること」の確認をする(朝の会、終わりの会)

⑤予行練習の反省をする(できたこと、できなかったことを明らかにする)

■今日は、運動会の予行練習をしました。自分が最初にやった仕事は、旗持ちをしました。でも帰るとき、手間取ってしまいました。だから、本番では、ちゃんとやりたいと思います。そして綱引きの時は、今までかなり時間がかかっていただけ、役割を決めたので並ぶのが早くなってうれしかったです。

⑥本番

⑦運動会を振り返って(練習から本番まで)の感想と交流(1時間と通信)

■2人3きやくのときに1年生に「君はここだよ」と声をかけたりできた。応援合戦のとき、ものすごくおおきな声でやった。50m走のとき「はい！」といいながら手をきちんとあげれたからよかった。反省のときの目標をすべて本番でできたから良かった。

⑧下級生の作文を紹介する(これはなわとび大会のときのものです)。

■とぶ前に、さがかなみちゃんのお姉ちゃんが、「なわをよく見てね。」と言ってくれたから、おちついてなわを見てやったら、いつもより上手にできてよかったです。(3年)

■6年生は負けていても大きな声を出していて、すごががんばったんだなと思いました。私がつっぱいしてもきにせずにとんでいたし、自分がつっぱいたらごめんなさいとあやまっていた人もつぱいだったので、すごいと思いました。私もそういう人になりたいです。大きな声でかぞえるから、みんなでいっしょにとべるんだな〜って分かりました。(3年)